

---

# 友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ  
津山洋学資料館友の会

2018 September 創刊号

---



志度（香川県）研修バス旅行（3ページに関連記事）

## CONTENS

---

創刊に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・	2
平成30年度総会を開催しました	
お庭整備のボランティアを募集	
薬草の小径から	
研修バス旅行報告	
平賀源内の生誕地・志度を訪ねて・・・・・・・・	3
蘭学・洋学史跡探訪・・・・・・・・	4
トピックス	
編集後記	

## 創刊に寄せて

津山洋学資料館友の会会長 小原龍二

昭和56年に洋学資料館友の会が発足し、翌年から「友の会だより」の刊行が始まりました。友の会だけでなく資料館の活動報告としての役割も担い、第58号をもって最終号となったあの懐かしい「友の会だより」に代わって、現在の資料館の機関誌「洋学資料館」が創刊されたのが、新館がオープンした年、平成22年の7月でした。

その後も途切れることなく、平成30年2月には、第21号が会員のもとに届けられました。鮮やかなカラー写真と記事の内容は、友の会会員が参加し学習したものであるだけに、皆様も記憶をたどりながら懐かしく読まれていることと思います。

しかしながら、友の会独自の情報交流の場もあれば、との提案を受けて、平成30年度総会において、「友の会通信」の発行が提案、議決されました。編集長には、「友の会だより」創刊から携わった下山純正顧問を迎え、会員有志による編集委員会を立ち上げて、ここに第1号が誕生しました。

「友の会通信」を介して会員の絆が強く結ばれ、お互いの人生がより豊かな、潤いのあるものになることを期待し、楽しみがまた一つ増えたことを喜び合いたいと思います。

## 平成30年度総会を開催しました

4月28日(土)、文化講演会に引き続き、平成30年度総会を開催しました。すでにお手元へお届けしている資料の通り、平成29年度の事業報告・決算監査報告のあと、平成30年度事業と予算を審議・承認いただき、この「通信」の創刊も決まりました。色々な事業を予定していますので、会員の皆さまぜひご参加ください。

## お庭整備のボランティアを募集

副会長 小林圭子

洋学資料館の薬草のこみち小径や中庭、最近植物の元気がないみたい：そんな心配の声が友の会役員会で出されました。まずは有志でボランティアを、と役員が声掛けしたところ、5月5日(土) さっそく5名が集まりました。



6月9日の活動の様子

## 薬草の小径から ①



オキナグサ(翁草) キンボウゲ科  
東アジア原産。春に赤い花が咲いたあと、白い綿毛ができます。この綿毛から、翁草の名前がついたといわれます。白頭翁の名前で、生薬(しょうやく)としていら

資料館の玄関先と中庭の空いたスペースに、クリスマスローズやアジサイ、ヤブラシなど、自宅から持ち寄った数種類の花苗を植え付けし、現在順調に育っています。さらに、研修旅行のバスの中で声かけしたところ、6月9日(土)には14名もの方に参加いただき、薬草の小径や中庭の草取りと落ち葉の片付けを行いました。雨の心配をしていましたが、汗ばむような天気となり、夕方4時から一時間程度の作業で、見違えるほどきれいになりました。資料館を見学に来られた方々に、薬草の小径の草花にも興味を持っていただけるように、今後年に2回程度の整備作業を予定しています。次回は11月10日(土)午後3時からを予定しています。都合のつく方は、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 第38回研修バス旅行報告

### 平賀源内の生誕地・志度を訪ねて

理事 安東勢輔

6月2日(土)、友の会研修バス旅行に参加しました。天候に恵まれ、最初の目的地のイサム・ノグチ庭園美術館に到着。庵治石の産地、香川県の牟礼<sup>むれ</sup>にあり、国際的に活躍した彫刻家イサム・ノグチが制作に励んだところです。屋島と五剣山を望む場所で、彼が自ら選んで移築した酒蔵や古民家が、生前の雰



平賀源内が蔵番を勤めた高松藩の米蔵跡

囲気そのままに公開されています。石の作品が点在する園内の蔵の中に、四角いドーナツ状の「エナジー・ヴォイド」がずっしりと立っています。意図はよく解らなかつたのですが、ここにある石の作品中最大のものであり、圧倒されました。蔵の中は土間に水が打たれ、きれいに掃き清められていて、歩くのに気が引けるようでした。また、彼が住んでいた古民家の中の、照明のインテリアもすばらしかったです。照明は彼の作品とのこと。

お昼は古民家を食事処にした「郷屋敷」でうどん定食。腹ごしらえをした後は、メインの平賀源内の故郷・志度<sup>しど</sup>の町に移動。源内が残した多くの発明品や著作作品は「平賀源内記念館」に陳列されていて、エレキテルの体験ができるコーナーもありました。志度寺及び源内のお墓を参拝し、「平賀源内旧邸・薬草園」で記念撮影。最後に平賀家が代々蔵番を勤めた「高松藩の米蔵跡」を見学しました。改めて平賀源内の天才的な数々の業績を学ぶことができ、実りの多い研修となりました。余談ですが、我が家の床の間には、曾祖父



旧宅に付属する薬草園



源内旧邸で薬草茶のおもてなし

が購入したという獅子の焼き物がでんと鎮座しています。亡父が「鳩溪<sup>きょうけい</sup>(源内の号)」の銘を発見し、源内が焼いたものだと思われていました。「平賀源内旧邸」で源内焼に詳しい砂山長三郎館長さんに、我が家の置物の写真を見ていただきました。源内焼は源内自身の制作ではなく、源内の指導により型起こして制作されたもので、同じ作品が見られるとのこと。「この型の作品は非常に少ないので大事にしてください」と館長さんのお言葉を頂いたので、大きな収穫となりました。家宝として大切にします。最後にになりましたが、企画進行お世話をして頂いた資料館の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

# 蘭学・洋学 史跡探訪

①

## 「箕作阮甫墓所」

(東京都府中市多磨町)

会員 松浦信輝

最初は、やはり郷土の箕作阮甫みづくりげんぽと言うことで阮甫の墓に参つてきました。

江戸詰となった阮甫は、藩医のかたわら幕府天文方の蛮書和解御用や蕃書調所に召し出されます。ここでペリーがもたらした米国大統領親書の翻訳や、長崎に来航したロシアのプチャーチンとの交渉に、川路聖謨かわじよみかろに随行してあたりました。

1860(万延元)年、江戸湯島天神下の自宅で65歳で歿します。当初、墓は江戸白山の浄土寺に建てられました。が、のちに多磨霊園(14区1種2側2番)に移されました。同霊園は西武多磨駅から徒歩5分ですが、広さが東京ドーム30個分以上もあり、阮甫の墓までは入口から15分位かかりますので、歩き易い靴で参られることをお勧めします。



アクセス 多磨霊園：東京駅より約50分  
JR中央線武蔵境駅乗換、西武多磨駅下車

阮甫の墓表には「紫

川箕作阮甫先生之墓」、

側面には朋友大槻磐

溪撰の碑文が刻まれ

ています。墓域には箕

作家之墓のほか省吾、

麟祥の墓があり、静か

に眠っております。

参考文献

木村岩治著『洋学者 箕作

阮甫とその一族』日本文教

出版、1996年

木村岩治編『箕作阮甫「西

征紀行」津山洋学資料館

友の会、1991年

## ピックアップ

### 箕作秋吉の童謡CDに

箕作秋吉(元八)の長男で阮甫

のひ孫)は作曲家として「メーデーの歌」など多くの曲を作りました。うたわらべ代表の大島良子さんは、長年秋吉の手がけた童謡の収集に奔走され、この度、29曲を収めたCDを完成されました。



「詩のゆりかご  
箕作秋吉 童謡曲集」  
1,500円(税込)

《お問い合わせ》  
童謡広場うたわらべ  
0868-23-6139

### 『岡山蘭学の群像3』発刊!

シンポジウム「岡山蘭学の群像」の内容を収録した報告集第3巻が発刊されました。下山純正顧問が出演し、津山の洋学者たちがテーマです! 友の会で委託販売していますので、会員の方は、資料館窓口で割引価格(1400円)にてご購入いただけます。詳しくは下記事務局へお問い合わせください。



『岡山蘭学の群像3』  
公益財団法人山陽放送  
学術文化財団 編・発行  
定価 1,728円(税込)

### 編集後記

新館の開館を契機に、それまで津山洋学資料館友の会が事業の一環として発行してきた「友の会たより」を終刊し、館の機関誌として「洋学資料館」が発行されることになりました。

しかし、もう少し友の会活動について、会員同士の相互理解を深めるための手段があればということ、このたび新たに「友の会通信」を発行することになりました。

「友の会通信(創刊号)」をお送りいたします。

編集長 下山純正

編集委員 安東勢輔

小林圭子

中島浩明

渡部紀子

### 津山洋学資料館友の会通信

創刊号

平成30年9月

編集・発行

津山洋学資料館友の会

事務局 〒708-0833

津山市西新町5

津山洋学資料館内

☎ 0868-23-3324